

令和5年度 自己評価結果公表シート

作成 学校法人 北山学園
くずはローズ幼稚園
園長 北山 展弘

1. 本園の教育方針

自分で考えて行動できる子どもの育成
やってみようの精神を養う

2. 本園の教育目標

自分のことは自分でしよう
あきらめずに最後までやり遂げよう
思いやりの心を持とう

3. 29年度、重点的に取り組んだ目標・計画

- ・ 課外教室について再考する。
- ・ 管理運営

4. 評価項目の達成及び取組状況ならびに今後の課題

評価項目	取組状況
- 課外教室の種類	現在、課外教室はスポーツクラブ・スイミング・空手・チアダンスが運動系、英語教室・プレイルームが学習系です。 正課の中での「今しかできない体験をたくさんする」という体験教育を課外でも体験できるという機会を設けることができている。
- 子どもの特性に応じた課外授業の選択	子どもたちの課外教室の期待を高めつつ正課の保育に還元できる環境づくりを目標とした。 子どもたちの日頃の活動を見ながら興味をもって取り組めるもの、得意な分野が伸ばせるものをすすめた。 そのためには保育終了後の課外教室での取り組み内容を深く知ることが必要であった。 課外といえども課外の先生方との深い情報共有がなされていないと子どもたちへの適切な関わりが保てないことがわかった。 今後はより一層子どもについての共通理解を図る必要がある。

<p>- 課外教室の指導者とのかわり</p>	<p>正課でも指導をしていただいている先生方と毎日の子どもたちの状態の引継ぎが必要であったが、情報共有がうまく図れなかった。</p> <p>同じ課外を受講する子ども同士のかかわりに保育者が積極的にかかわらなくてはならない場面では、ある程度の共通認識と情報共有ができたが、全体的にはまだまだ不十分だと感じる結果となった。</p> <p>私たちの保育観を課外の先生方に今後伝えていきたい。</p>
<p>- 保護者との関わり</p>	<p>保護者にとって幼稚園での課外教室は利便性や信頼性があるため利用しやすいということは以前より感じられていた。</p> <p>しかしながら、保護者の子どもたちへの期待値が高く、子どもの気持との間にずれがある場合の対応は適切にできたかどうか疑問である。</p> <p>園外の習い事をしている家庭も多くあり、子どもたちから様子を聞くことも多いが子どもたちの生活への過度な負担になっていないかどうかは判断が難しい。</p> <p>各家庭での習い事の把握は必要だと思われる。</p> <p>最終的には保護者との幼稚園外の生活についても園での子どもの様子から保護者と情報共有できる関係性の構築が重要であった。</p> <p>卒園後も参加できる空手・チアダンスでは卒園児との関りが継続しており、小学生での様子を知る良い機会となっている。</p>

<p>. 管理運営</p>	<p>現在の社会状況における本園の近隣地域からの必要性の変化をとらえていくことが大切を考える。</p> <p>保育を必要とする子どもの増加、共働き家庭の増加による家庭環境を補うことが幼稚園でも必要になってきているため、加配教員の増強により子どもたちへの厚い関わりを設定している。</p> <p>財務については公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。</p>
---------------	---